

ラヴェンナのモザイク芸術

越 宏一（東京藝術大学名誉教授）著

世界遺産の7つの聖堂を巡る美術の旅！

アドリア海に面していた「モザイクの町」北イタリア・ラヴェンナの世界遺産
「ラヴェンナの初期キリスト教建築物群」を豊富なカラー図版とともに年代順に紹介。

ラヴェンナ諸聖堂を飾る百花繚乱のキリスト教モザイク芸術は、
後の西欧中世美術の形成を予告している。

美術史上、重要な傑作の造形分析の醍醐味を伝える
西洋美術史講義の刊行！

本体価格 4,000 円 + 税

- 菊判上製カバー装 ●カラー口絵 52 頁 / 本文 220 頁 ●カラー図版 99 点 / モノクロ図版 268 点
●ISBN978-4-8055-0756-8 C 0071

お取り扱いは

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1
IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

目 次

はじめに

第I章 ラヴェンナおよびその諸聖堂の歴史的背景

第II章 ガッラ・ブラチーディア廟堂

第III章 正教徒洗礼堂

第IV章 アリウス派洗礼堂

第V章 大司教館礼拝堂

第VI章 サン・タポリナーレ・ヌオーヴォ聖堂 その1(キリスト伝サイクル)

第VII章 サン・タポリナーレ・ヌオーヴォ聖堂 その2(殉教者たちの行列のゾーン、
アプシスの主題[サン・タポリナーレ・イン・クラッセ聖堂]、預言者像のゾーン)

第VIII章 サン・ヴィターレ聖堂 その1(建築および図像プログラム)

第IX章 サン・ヴィターレ聖堂 その2(皇帝・皇妃の両モザイク・パネル)

第X章 サン・ヴィターレ聖堂 その3(福音書記者像とモーセ像の造形その他)

おわりに

あとがき
文 献
図版出典
索 引

《著者略歴》

越 宏一(こし こういち)

1942年長野県生まれ。東京藝術大学名誉教授。

1965年東京藝術大学美術学部芸術学科卒業。同年ウィーン大学哲学部入学。オットー・ペヒトおよびオットー・デームスに師事し、1971年同大卒業、哲学博士号(Dr. phil.)取得。1973年国立西洋美術館研究員(文部技官)。1977年同館主任研究官。1979年東京藝術大学美術学部助教授。1979~85年国立西洋美術館主任研究官兼任。1987年第39回朝日学術奨励金(朝日新聞社)。1991年第13回フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト賞(ドイツ)。1994年東京藝術大学美術学部教授。2010年同大を定年退職。専門は、ヨーロッパ中世美術史。

著書に『ライヒェナウの初期中世壁画』(2巻、ベルリン・1999年刊)などがある。

関連書籍

ビザンティン聖堂装飾プログラム論

益田朋幸 著

本体価格 30,000円+税

ビザンティン聖堂を飾る壁画、その装飾の“物語”の原理を「円環」「相称性」「中軸」という3つのキーワードで考える新しい試み。欧米にも類を見ない学会を揺るがす画期的研究。

B5判上製函入 口絵16頁 本文560頁 挿図285点
ISBN 978-4-8055-0716-2 C3071

西洋美術論考 古代末期・中世から近代へ

越 宏一 著

本体価格 43,000円+税

ライヒェナウ壁画の総合的研究で著名な著者が、西洋古代末期・中世から近代までの美術について発表した論考を集成、様式的・図像学的課題を実証的に論証した労作。

B5判上製函入 口絵16頁 本文746頁 挿図569点
ISBN 978-4-8055-0409-3 C3071